

2023年度（令和5年度）学校評価自己評価表

城南中学校区	校番	福山市立川口小学校
最終更新日		2024年（令和6年）2月13日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
・義務教育修了時のめざす子どもの姿が明確で、時代の流れに対応しているのがよく分かる。 ・コロナ渦で生活リズムが乱れた児童、生徒もいる中で、改善に向けた取組みが進んでいるように見える。 ・全体的に教職員の勤務時間が減少傾向にあるので取組みを更に進めてほしい。	・多くの児童生徒が「自ら考え、決める、選ぶ」を実践している。 ・学び合いを通して、自分の考えを深めることができる、児童生徒が増えてきている。 ・小学校での不登校児童は減少傾向だが、中学校では変化がない。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 ・ 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
		中学校区として統一した取組等	○「学校・子どもはこうあるべきだ」といった価値観や固定観念を問い直す ・ 多様な価値観で子ども一人一人の学ぶ姿をみる。 ○自分が“考えて、決める、選ぶ” ・ 自分で方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりする。

III 自 校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	・ 課題発見解決力（自己決定） ・ 対話する力（コミュニケーション） ・ 認める態度（思いやり）
・ 子ども一人一人の個性を尊重し、個に応じた支援に取り組む。 ・ 子どもの主体性を大切にし、子どもとともに決める	めざす子ども像	課 対 認 明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見だし解決に向けて方法をさぐる。 課題や問題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者と対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを生かし合う。 自己の考えや思いについて自信を持ったり認めたり、他者の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる。
学校教育目標		
自他を認め（思いやり）、自己決定できる児童の育成		
現 状	教科等	国語科
＜児童＞ ・教職員の連携を密にし、組織で対応することで、児童が落ち着き、社会性が身についてきている。 ・ 高学年を中心に、自分の学校での役割を意識し、お互いを思いやる集団ができつつある。 ・ 「認知」を意識した授業づくりに取り組んでいるが、まだ教師主導の場面も多い。 ＜地域・家庭＞ ・ 学校教育推進に協力的である一方で児童よりも保護者対応に苦慮する場面も多々ある。	研究	主題 内容等 自分の考えを表出する児童の育成 ～フレーム思考を活用した授業づくりを通して～ 児童の問いをもとに発問を行い、児童同士が対話し、課題を解決していく過程で自分の考えを表出できるようにする。
	めざす授業の姿	①フレーム思考を活用して読みを深める。 ②他者と対話することで考えを深める。 ③課題について考えや思いを、しっかりまとめ、表現する。

福山市立川口小学校

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経 営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	自分の考 えを表出 すること ができる 児童	★	継続	自己表現できる (書く・対話な ど)の児童の割合 を80%以上にす る。	①自己表現と自 己評価の場にな るノートづくり を行う。	①単元末にノー トをまとめる時 間を15分以上 設定する。	①児童アンケート集 計の結果、「自分の考 えを書いたり伝え たりすることがで きる」と肯定的に 答えた児童は89.5% だった。単元末に ノートをまとめる 時間を15分以上 設定したクラスは 73.9%だった。	3	3	①単元末にノート をまとめられる よう、毎時間の板 書の写真を児童に 配布し、大事だ と思うところを まとめられるよ うにする。また、 ノートコンテスト を行い、他学年の ノートのまとめ方 を参考にできる ようにする。	◎自己表現できる (書く・対話など) と回答した児童 の割合は89.4% であった。□全学 級が単元末にノー トをまとめる時 間を15分以上 設定した。ノート コンテストを行 い、児童はノー トのまとめ方の 幅を広げることが でき、オリジナル ノートを作成する ことができた。	4	4	4	○今年度の研究主 題「自分の考えを 表出する児童の 育成」を来年度 も継続する。対 話しやすい環境 を整えていく必 要がある。また、 引き続き単元の ノートまとめを 行い、自分の考 えを表現できる よう質を高めて いく。 ○教師の授業力 向上のために、 複数で教材研究 を行える環境を 整えていく。
					②教師の授業力 向上のために授 業を公開する。	②教師の授業力 向上のために学 期に1回以上授 業を公開する。	②全学級が学期に 1回以上授業を 公開することが できた。	3	3	②学年間で連携 を図り、お互いの 授業を見合い、 振り返りを行う 時間を設ける。	□全学級が学期 に1回以上授業 を公開し、教員 同士で互いに授 業づくりについて 振り返るなど、 授業力を高め ようと努めるこ うすることがで きた。	3	3	3	
1	自他とも に認め合 える児童	★	見直し	「学校では安心 して過ごすこと ができる」と回 答する児童を 90%以上にす る。	①児童の自己有 用感を育成し、 協調性を育てる ために、「クラス 会議」を行う。	①クラス会議を 学期に1回以上 実施する。	①児童アンケート の結果、「学校で 安心して過ごす ことができる」と 肯定的に答えた 児童は96.2% だった。全クラス が学期に1回以上 クラス会議を実 施した。各行事 (宿泊学習や修 学旅行、運動会 など)や日頃の ことなどについて 話し合った。	3	4	①今後は発達段 階に応じて、児 童が主体的に話 し合いを進めさ せていけるよう に、担任と司会 などがしっかり 事前に話し合い、 見通しをもって 取り組ませてい く。	◎「学校では安心 して過ごすこと ができる。」に 回答した児童は 95.5%であった。 □各学期に「ク ラス会議」を行 い、行事や日頃 のことなどにつ いて話し合った。 どんなことを 話し合いたい か、どんなこと をみんなと共有 したいか、司会 者の児童と担任 で話し合い、見 通しをもって 取り組んだ。	3	4	4	「学校では安心 して過ごすこと ができる。」とい うことに概ね肯 定的に答えてい る。来年度に向 け、児童が自己 有用感を高め、 協調性を育てら れるような取組 を行っていく。
					②児童の「居場所 づくり」及び「自 己決定」の場を 設けるために、 ロングタイム大 休憩を行う。	②ロングタイム 大休憩を月に3 回以上行う。	②ロングタイム大 休憩を月3回以 上100%行うこ うことができた。 毎週金曜日をロ ングタイム大休 憩ができるよう に日程を調整し 、実施した。	3	3	②毎週金曜日 になると子ども 達が「今日はロ ングタイムだ!」 と楽しみにして いる。またいつも より長い休憩時 間なので、普段 あまり関わらな い友達と接する 児童もいたの で、曜日にこだわ らずロングタイ ムを行っていく。	□ロングタイム 大休憩を毎月3 回以上100%行 った。普段より 長い休憩時間の ため、各委員会 からイベント (花クイズ・大 おにごっこなど) を開催するなど 、ロングタイム 大休憩を有効活 用した。	3	4	4	
4	心身とも に健康な 体作りには ぐくみ、たく ましく生きる 児童		継続	健康な体作り に営む児童を 80%以上にす る。	①昨年度より 残菜を減らす。	①給食時間を 30分以上確保 する。	①児童アンケート では、「給食を残 さず食べている 」と答えた児童 は、約83.3%と 給食を最後まで 食べようとする 児童が増えてい る。残食量に	3	4	①栄養士を中心 に、各学級で食 に関する授業を 実施したり、給 食室で給食がで きるまでの様子 を動画で伝えたり することで、児 童に食の大切	◎「健康的な体 作りに取り組め ている。」に回 答した児童は 86.6%であ った。□各学級 でミニ保健の時 間を設けた。給 食	3	4	4	給食時間の確保 や食育を様々な 場で実施していく ことで、残菜量 は年間を通して ほとんど出ない 状況である。今 後も児童が食の 大切さ

						については、昨年度より増加しているが、市平均と比べると少ない。			さやできるだけ残さず食べきろうとする意識をもたせていく。	ができるまでの様子や衛生面など気を付けているポイントを児童に紹介することができた。また、現在では調理の様子を紙面にまとめ、定期的に発信している。				を感じるような取組を継続していく。
				②運動量を増やす。	②体育の授業において、体を動かす時間を20分以上設定する。	②児童アンケートの結果、「体育の時間や休憩時間に体を動かすのは楽しい」と答えた児童は、約90.2%であり、児童は体育の時間や休憩時間で楽しんで運動することができている。	3	4	②今後は寒くなり、外で活動する児童が減ると考えられるため、体育委員会を中心に、外で楽しく運動できる機会を企画し、実施していく。	□どの学年でもなるべく運動時間を確保できるように取り組んでいる。また体育委員会で外遊びを実施したことで、寒い中でも多くの児童が参加をして、楽しみながら体を動かすことができた。	4	4	4	授業や休憩時間に体を動かす時間を確保したことで、多くの児童が体を動かすことを楽しむことができています。児童が今までに獲得してきた知識・技能が活用できる系統立てた取組を計画していく。
2	教育公務員と専門性及び規範をもった教職員。	継続	仕事にやりがいを持ち主体的に業務に取り組む教職員の育成	① 主任・主事を中心に適宜教材研究や学年会を設定しコミュニケーション機会の充実を図る ②45時間、年間360時間を意識した仕事の内容、量、手法について業務改善に努める。	① 「仕事にやりがいを感じている職員」の割合を90%以上にする	①定時退校は各教職員が意識して行い、学期はじめ学期末を除き、週1回を達成している。 ②月45時間以内の在校時間達成率は現時点で98%。	3	3	①見通しをもって早めに準備をし、計画的に業務を進める。 ②年間を見通し、360時間以内になるよう業務内容等を精選し、改善に努める。	◎教職員の不祥事0、病休者0。週1回の定時退校はほぼ実行できた。早めに見通しをもてるように予定を提示した。 □月45時間以内の在校時間達成率は2学期以降99%。年間360時間未満に向け、業務改善等を積極的に努める。	4	4	4	予定を早めに見通せるよう行事計画等の周知を早めに行う。また、ゆとりをもって児童の指導や業務にあたることができるよう、今後も会議等の精選を行う。引き続き服務規律の確保に取り組む。

※クラス会議・・・子ども達が話し合いを通して、人との関わりを増やし、困難に立ち向かう力（レジリエンス）を高めることを目的とした活動。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。